

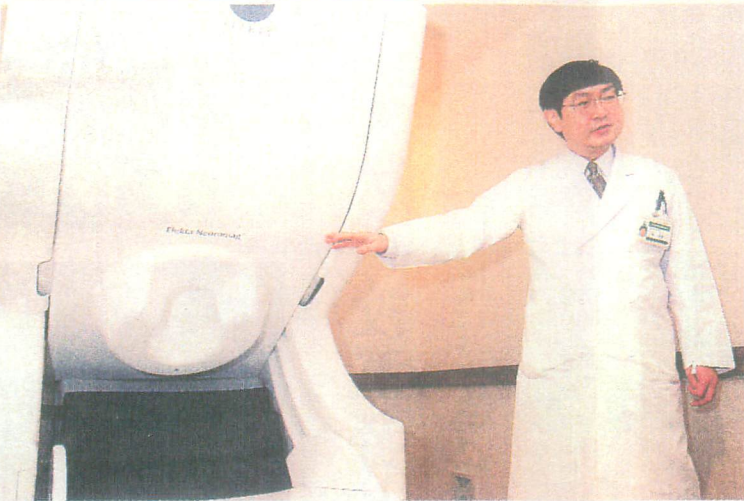
山大付属病院

病巣の発見能力アップ

脳手術検査に新機器

県内初5月にも運用開始

山形大医学部付属病院に設置された神経磁気診断装置



山形大医学部付属病院は、脳の機能検査やてんかんの病巣部位を高精度に検出することができる神経磁気診断装置(MEG)を県内で初めて設置したことを二十四日、明らかにした。運用開始は五月を予定している。これまでの装置よりも機能が飛躍的に高まることで、手術の精度向上、再発防止、病巣の確実な発見につながる。

MEGは、脳神経細胞(ゆよつ)の手術の際に、重要な神経を傷つけることなく、病巣だけを確実に取り除くことが可能になる。これまでの機器では、病巣を完全に取り除けないケースもあり、残った病巣が病気の再発につながるケースもあった。新機器を導入することにより、再発防止につながる。

このため、脳腫瘍(しんじょう)やてんかんでは、病巣を

発見する感度がこれまでの機器よりも増すため、確実に病巣を見つけられることができるようになる。MEGは現在、国内約四十施設に設置されているが、臨床分野で使用されているのは約二十施設。東北では仙台市の広南病院に次いで二番目。

機器の価格は、取り付け料も含めて約四億千六百万円。山形大医学部付属病院は、五月からの運用開始に向けて準備を進めている。